

2023年1月4日

令和5年1月 仕事始めの年頭挨拶（スピーチ原稿 社内広報版）

株式会社 アイヴィス

代表取締役社長 石和田 雄二

○ はじめに

{ 明けましておめでとう。コロナ前のお正月が戻ってきました。}  
今年元旦が日曜日、カレンダー通りの当社は短い正月休みでした。  
今年しかし、コロナ禍に伴う外出制限が3年ぶりに緩和され、  
家族と故郷の実家に帰ったり、友人と遊びに出かけたり、  
楽しい時間を過ごされた人も多かったかと思えます。  
久しぶりに、コロナ禍以前のお正月が戻って来た様な感じがしています。

○ 好天に恵まれ、良いお正月でした。

{ 私も TJK の箱根に行き、箱根駅伝を応援して来ました。}  
私も、TJK(東京都情報処理健保)の箱根保養所に一泊予約をしてあり、  
車でドライブを兼ねて箱根強羅に行ってきました。  
恒例の箱根駅伝は、マラソン3冠狙う駒大と箱根連覇を狙う青学の対決、  
2日の往路3日朝の復路を小涌谷近くの道路脇で孫たちと見て来ました。  
好天に恵まれ温かい日差しの中で、正月休みの一時を楽しみました。  
とは言っても、中小企業の社長は現場管理と雑用係も仕事の内、  
問題プロを抱え大晦日は10時まで賀状書きと情報整理に草案検討、  
昨日は駅伝通過後、家族と別れ電車で出社、家に帰ったのは夜中でした。

○ 景気はコロナ禍の終息を見越して回復に向かう

{ 海外はこれから景気後退期に入るが、国内景気は回復に向かう。}  
今年日本経済は、国内に限れば漸くコロナ前水準に戻る見通しである。  
高いインフレに悩まされている米国は、FRBが急ピッチで金利を上げ、  
各国も自国通貨防衛とインフレ波及防止へ一斉に金利を上げ始めた。  
結果はオーバーキル、欧州はマイナス成長、ロシアのウクライナ侵攻や  
中国のゼロコロナ政策の影響もあり、世界経済は徐々に悪化する見通し、  
米国も年後半にマイナス成長へ陥るとするのが大方の専門家の見方だ。  
日本にも何れ世界不況の波はやって来るが、ゼロ金利を続けてきた日本、  
円安で物価上昇しても景気後退のダメージ少なく、それ以上にコロナの  
終息効果が大きく、消費需要中心に4年ぶりの景気回復へと向かう筈だ。

## ○ IT サービスは上期好調、下期に入って選別が進む

{ 人材不足下で先送り案件動くが、後半の主流は大手の次世代案件。}

IT サービスは、コロナ以前から動き出しつつあった DX 投資がコロナ禍の下で先送りされて来たが、これがコロナ終息を前に本格的に動き出す。この 3 年間のコロナ禍の下でもネット通販・物流など需要は堅調に推移、Online 会議の普及や在宅勤務で新たな IT サービス需要も生れていたが、それにプラスする需要顕在化、全産業や官公庁も巻込む大型需要となる。昨年 12 月の日経の産業天気図の中でも、円安に伴う物価高と忍び寄る世界景気の不況の足音で、今まで元気だった通信もゲームも人材派遣も 30 業種の大半が悪化する中、唯一 IT サービスが晴業種を維持している。しかし GAF A のリストラが典型、低金利下の余裕資金が市場性の曖昧な先端 IT や携帯・SNS の飽和 IT から逆流しており、国内でもブーム的な DX から後半は堅実な IT 投資に移り国や大手の次世代投資が主流になる。IT サービスも潮目の変化、IOT・Cloud・データ分析へと重心が移る。人材不足の下、低生産性の IT サービスこそ愈々自動化の波に晒される。

## ○ 時代の半歩先を行くアイヴィス、拡大再生産が進行中

{ 新たな挑戦とその経験知見が更なる案件を呼び込み、好循環を生む。}

当社が前期、売上 44 億円から 53 億へと 20% 成長を遂げられたのは、各位の努力があるにしても、優秀な若手人材採用に加え AI などの先端技術力をサービスの軸に据えて「変革の波」に乗ることが出来たからだ。変革期に半歩先に行く事で新案件を取込み、達成への努力を通じて更に半歩先に行くことが出来る、この一般則を繰返し実践して来た為である。今期は 100 名強の新人が入社、先端技術部門に加えクラウドリフトなどの先進基盤部門も新設、下期からはメタヴァースや XR を担当する CPS 部門も動き出しており、これらの新技術が拡大再生産へと繋がって来る。正確には、顧客業務に密着した経験豊かな SI サービスに加えて上述の先進技術が協調融合し始めたことが当社の成長力の源泉となっている。今期も当初計画の売上 58 億円を超え 64 億達成へと伸びる可能性が高い。要員増に加え、この半歩先行く技術力が拡大再生産を生んでいるからだ。

## ○ 今年の世界経営上の 3 大重点目標

{ IT サービスの時代変化に対応、将来の成長へ向け基盤整備を進める }

- ① 管理部門強化： 今後の要員増を考え、最大のボトルネック解消へ
- ② 大阪支社自立： 4 年後の当社の支柱、年度内に自立 120 名体制へ
- ③ 資格取得推進： 高度技術の方向性は内製力より外部知財の活用力

今期 100 名の新人が入社、4 月には 120 名の高い能力の新卒が入社する。新卒大量採用は、新たな IT 時代を想定して 10 年来続けて来たものだ。直近の新人だけでなく 350 名超の階層別技術者がおり、来期以降 120 名規模の採用が続いても、当社技術部隊のサービス力が崩れる訳ではない。しかし、この間、会社成長を支えて来た人材が高齢化、手薄になる中で、管理系経験人材の補強はしたが、将来担う中堅人材の採用は難しかった。持続的成長の為には、人材と共に部門の抜本的改革が今年目標となる。

第 2 の重点目標は大阪支社の基盤整備、当社の将来構想は東京・名古屋・大阪の 3 拠点を中心とした自立協調型の成長戦略にあり、大阪万博契機に現 80 名規模の大阪支社を 120 人超規模として、採算自立が目標となる。加えて第 3 の重点目標は、時代変化に対応した技術者の技術刷新である。VUCA の時代、企業の経営環境を始め社会全体の変化が早くなっており、IT サービスにとってもアジリティ(俊敏さ)が時代の要請となってきた。スクラッチ開発からクラウドやオープンソース活用へ、自社資産の利用と共に流通ソフトの活用、モノリシック開発からマイクロサービスへ、知能化ローコード活用や爆発するデータの分析能力などが目標となる。技術の高度化だが、外部資源活用へ向けて必要な資格取得を徹底したい。

#### ○ 当社の今年創業 35 周年、この一年間の出来事を概観する

{ IT 産業が順調な今、成長指向の当社は順風を背に成果へ向う。}

令和 5 年 2023 年の今年会社創業 35 周年、技術面の更なる充実と共に、今後、作業環境整備や行事を順次立上げながら当社は未来を拓いて行く。以下、想定中の主要 12 項目を紹介したい。

- ① 1 月末には、問題プロジェクトが解決して年度目標達成に向う。  
今期の修正計画、売上 64 億超、経常利益 2 億円へラストスパート。
- ② 2 月には、審議中の大手 2 社との業務・資本提携が成立する見込み。  
NTT データとの提携に加え、当社未来創り支援の主要 3 社揃い踏み。
- ③ 3 月には、本郷開発センター 140 坪増床、新人受入れと組織再編へ。  
名古屋も三河事務所に代え新事務所開設、来期に向け全社環境再整備。
- ④ 4 月には、専門性の高い院卒 37 名を加えた新卒新人 120 名が入社。  
技術系社員 750 名体制、平均年齢 32 歳の成長性高い技術集団が誕生。
- ⑤ 5 月には、賃上げ実施後、役割刷新の下で新組織体制本格スタート。  
ジョブ型雇用を含みに制度組織を刷新、令和 5 年度組織の運用軌道化
- ⑥ 7 月には、新人 120 名が集合技術教育終えて配属、現場で専門 OJT  
配属計画は優先大阪 35 名、先端技術 25 名 ITSS40 名で名古屋 20 名

- ⑦ 8月には、委託研究開発も含め技術者750名全員がフル稼働状態。成長基盤整備最終年の目標売上高70億利益3億超に向け本格始動。
- ⑧ 9月には、4年ぶり自由参加の社内大旅行を秋口実施へ計画準備。コロナ前の社員旅行は19年、最後の全社旅行を300名超で実施予定。
- ⑨ 10月には、11月X日の創業35周年記念イベントに向け準備開始。伝統行事を踏襲、主要客60余名招待の本会に加え社内祝賀会も開催。
- ⑩ 11月には、来期入社新卒120名の内定確定、社員850名へ足掛り。今期4月は770名でスタート、3年後26年度初1000名体制実現へ
- ⑪ 12月には、恒例の年末社内懇親会を順次3地域で4年ぶりに開催。開催は12月中旬以降、東京では内定者加え400人規模の参加となる。
- ⑫ 来年3月末には、年度目標を達成、成長基盤整備3年計画を終える。27年3月期技術者1千人売上100億を目指す新基盤整備計画が始動。

## ○ おわりに

{ 成果は黙って来ない、チームワークと地道な努力が結果を創る。}

何もせずに、目標達成が出来る訳ではなく、それなりの努力が必要だ。大切なことは、実現可能な目標を設定、日々努力しながら現時点の状態を冷静に確認、問題を定義することだ。目標が達成出来ても出来なくても、節目、節目の時点で過去の失敗に学びながらこれからの将来に横たわる問題の解決を考え続けること、乗り越えられるか否かの境目は、個人個人の努力と共にチームワークだ。

多少能力に優れた人でも、個人一人の努力ではたかが知れており、大きな成果には繋がらない。社会性のある未来への構想を描き、現実を着実に進めるには、多くの人の経験にも学び、将来を共有する仲間達と優れた指揮官が必要だ。当社の創業35周年を迎え成長基盤整備3年計画の最終年である今年、豊かで希望の持てる当社の自律成長型の将来像を共有し、各部門の優れた指揮官と有能な管理者の下で、社員一人ひとりの努力に加え、目標に沿った多様な個性と能力を引出すチームワークを実現したい。当面の目標である今期業績の達成と共に次年度計画への下地を作る。

これからの一年、社員の力を結集、地道に一步一步将来目標に近づいて行く。私の反省と自覚も踏まえ皆さんに協力をお願いし、年頭の挨拶とする。